

兵庫県西播磨地域で確認した県内初記録及び記録の少ない蛾類について (1)

高橋弘樹¹⁾

はじめに

筆者は2021年以降、兵庫県西播磨地域（相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、太子町、上郡町、佐用町）での蛾類の調査を行っており、地域内で採集・撮影した種の一部を高橋（2025）で報告した。

その後の調査で新たに撮影・採集できた種及び以前に採集・撮影していた種のうち、兵庫県内において初記録とみられる種、記録の少ない種、記録された地点は少ないものの発見地の近隣で未記録の種について新たに報告する。

兵庫県内に記録はあるが播磨地域全域で初記録の種には○を、西播磨地域で初記録の種には☆を種名の右に付した。採集・撮影者は特記したものを除き全て筆者であるため記載を省略している。

各種資料

兵庫県において初記録とみられる種

ニセマイコガ科

1. シロテクロマイコガ *Atrijuglans hetaohei* 図1

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

標高約1000m地点でのライトトラップに飛来した。複眼は赤色、胸部および前翅は黒色。国内分布は北海道、本州、四国、九州、奄美大島、西表島。幼虫はクルミの果実を摂食する害虫として知られ、マタタビにおいては果実の虫こぶに食入することが報告されている（広渡ほか, 2013）。

ヒラタマルハキバガ科

2. マエジロヒラタマルハキバガ *Depressaria taciturna* 図2

1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 15. X. 2025.

前種と同じ地点でのライトトラップに飛来した。国内では北海道、本州、国外では朝鮮半島南部、ロシア南東部、ヒマラヤ山脈周辺に分布する。寄主植物はミズナラで、成虫は3～4月と7～11月に得られている（広渡ほか, 2013）。

ハマキガ科

3. ウツギアミメハマキ *Acleris exsucana* 図3

1♂ 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 15. X. 2025.

前々種と同じ地点でのライトトラップに飛来した。国内では北海道から九州にかけて分布し、成虫は5～11月に記録がある。寄主植物はマルバウツギ、オオカメノキ、カンボク（那須ほか, 2013）である。

4. マエモンシロハマキ *Acleris lacordairana* 図4

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. X. 2025.

ライトトラップに越冬型の個体が飛来した。国内では北海道、本州、佐渡島、四国、九州に分布し、ウリハダカエデを寄主とする。季節型があり、夏型は6～9月、越冬型は10～11月および3～5月まで記録がある（那須ほか, 2013）。

なお、筆者は養父市でも本種を確認しているので併せて報告する。1ex., 養父市奈良尾 氷ノ山国際スキー場, 4. XI. 2023.

5. ニセウスキシロヒメハマキ *Gibberifera hepaticana* 図5

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。頭部は暗褐色。前翅基部は黒褐色、後半部はより褐色をおびた黒色である。肛角手前と中室末端に黒褐色紋をもつ（那須, 2021）。

6. クロゲハイロヒメハマキ *Spilonota melanocopa* 図6

1♂, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025.

海岸から2km程度離れた丘陵の山裾でのライトトラップに飛来した。雌雄で斑紋が異なり、♂の前翅は大きな前縁ひだをもち、灰色で、中央部に暗褐色線と翅頂部に外縁に沿った褐色線をもつ。♀は灰色で、多数の褐色点をもち、肛角が暗褐色、翅頂の外縁に褐色線をもつ。寄主植物はスダジイ、ツブラジイ、イスノキ（那須, 2021）。みはらしの森の里山整備に関わっておられる田中義則氏と茂見節子氏によると、これらのうちスダジイは同地の山中で確認できているとのことである。

7. セクロモンヒメハマキ *Epinotia rasdolnynana* 図7

1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 15. X. 2025. : 1♀, 同地, 1. XI. 2025.

ライトトラップに飛来した。国内分布は北海道、本州、四国、九州で、成虫発生時期は8～11月。寄主植物は日本では未知

¹⁾ Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市

だが、ロシアではカエデ属（那須，2021）を摂食することが報告されている。

メイガ科

8. シロマダラメイガ *Euzopherodes oberleae* 図 8

1ex., たつの市新宮町光都, 13. VIII. 2025.

貯水池周辺でのライトトラップに飛来した。国内では北海道、国後島、本州、四国、九州、対馬に分布する。本州では年2化で、成虫は6～8月に、山地から亜高山帯まで見られるがあまり多くない。九州では5月に平地で得られている（那須ほか，2013）。

ツトガ科

9. マツノゴマダラノメイガ *Conogethes pinicolalis* 図 9

1 ♀, 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

佐用町昆虫館の事業「昆虫学園中等部」の一環として瑠璃寺仁王門横の高台に設置したライトトラップに飛来した。モモノゴマダラノメイガに酷似するが、ラビアル・パルプスの第2節側

面が広く黒褐色であること、前・後翅にある黒点がやや大きく明瞭なこと、特に後翅の外横線に相当する点列は連続的になることなどで区別される。幼虫は針葉樹（マツ）の枝にトンネル状の巣をつくってその中にすみ、葉を食害するが、球果にも食入する（那須ほか，2013）。

カギバガ科

10. ヒメウスベニトガリバ *Habrosyne aurorina* 図 10

1ex., 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

前種と同日、瑠璃寺仁王門横の高台に設置したライトトラップに飛来した。飛来確認直後、筆者を含めたスタッフが次々に撮影を行い、その後採集を試みたが飛び去ってしまった。全国的に広く分布し、平地から山地までごく普通（岸田，2011a）とされるが、兵庫県ではこれまで未記録だった。高島昭氏は大阪府箕面公園での採集記録を根拠に、本種を今後兵庫県で採集される可能性のある種の一つとしていた（高島，1999b）。

11. ウスムラサキトガリバ *Epipsestis nigropunctata* 図 11

1 ♂ 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. X. 2025. : 1

♀ 1ex., 同地, 15. X. 2025.

標高約 1000m 地点でのライトトラップに飛来した。国内では北海道、本州、四国に分布する。年1化で秋に出現。寄主植物は未知である（岸田，2011a）。高島（1999b）は本種について「兵庫県からは今のところ記録は見つけれないが、分布域に入っており調査すれば見つかるものと思われる。」としていた。



図1 シロテンクロマイコガ,
宍粟市, 2025/8/29



図2 マエジロヒラタマルハキバガ,
宍粟市, 2025/10/15



図3 ウツギアミメハマキ,
宍粟市, 2025/10/15



図4 マエモンシロハマキ,
宍粟市, 2025/10/12



図5 ニセウスキシロヒメハマキ,
宍粟市, 2025/8/20



図6 クロゲハイロヒメハマキ♂と
交尾器, たつの市, 2025/8/3



図7 セクロモンヒメハマキ,
宍粟市, 2025/10/15



図8 シロマダラメイガ,
たつの市, 2025/8/13



図9 マツノゴマダラノメイガ,
佐用町, 2025/8/23

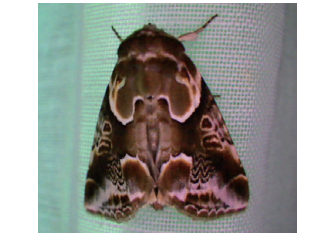


図10 ヒメウスベニトガリバ,
佐用町, 2025/8/23



図11 ウスムラサキトガリバ,
宍粟市, 2025/10/12



図12 ミナミクロモンアオチャク,
相生市, 2023/7/17



図13 マダラカバスジナミシャク♂
と交尾器, 佐用町, 2025/5/3



図14 カバイロコブガ,
宍粟市, 2025/8/29

シャクガ科

12. ミナミクロモンアオシャク *Comibaena subdelicata*

図 12

1 ♂, 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 17. VII. 2023. : 1 ♂, 上郡町金出地, 28. V. 2025. : 2 ♂, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 18-19. X. 2025.

いずれもライトトラップに飛来した。クロモンアオシャクに似るが前翅後角と後翅頂の紋は濃色になる。特に前翅後角の紋はやや小さく暗色。後翅頂の紋はより大きく黒紫色になる。後翅外縁に並行して白線が生じる(岸田, 2011a)。同書発行時点での国内分布は四国, 九州, 屋久島となっていたが, 2024 年に広島県で撮影されたとされる画像がウェブ上で公開されている。

13. マダラカバズジナミシャク *Eupithecia tantilloides* 図 13

1 ♂, 佐用町船越, 3. V. 2025

瑠璃寺仁王門横の高台に設置したライトトラップに飛来したものを採集し, 検鏡した。♂交尾器のサクルスの先端は三角形に大きく突出する。♀交尾器のコルプス・ブルサエは長く, 尾方で曲がる。年 1 化。山地で 4 ~ 6 月に出現する(岸田, 2011a)。

コブガ科

14. カバイロコブガ *Nola aerugula* 図 14

3exs., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

標高約 1000m 地点でのライトトラップに飛来した。幼虫はミズナラ, カバノキ属, キイチゴ属など各種の樹木につく(岸田, 2011b)。同書は「北海道, 利尻島, 国後島, 本州(愛知県以北), 新潟県粟島に分布し, 本州西部や四国からは得られていないが, 九州では阿蘇山で 1 ♂の採集例がある」とするが, 2000 年に山口県上関町長島で記録されている(神保, 2001)。

兵庫県で記録の少ない種及び発見地の近隣で未記録の種

ヒラタマルハキバガ科

15. モンシロヒラタマルハキバガ *Agonopterix costamaculella* 図 15

1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 23. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。普通種とされ, 識別も容易であるが兵庫県内での記録はあまり多くない。宇野ほか(2024)での記録は相生市・朝来市付近・丹波市となっている。

オビマルハキバガ科

16. カタキオビマルハキバガ *Deuterogonia chionoxantha* ○ 図 16

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。広渡ほか(2013)には寄主植物として, イヌシデとブナの枯れた樹皮や材部とそれに生じた菌類, ソメイヨシノの枝に発生したチャノカイガラダケとその枯

れた樹皮と材部が挙げられている。兵庫県内での記録は香美町ハチ北高原(阪上ほか, 2020)のみである。

ヒゲナガキバガ科

17. フタテンハビロキバガ *Scythropiodes malivora* 図 17

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。兵庫県内の記録は相生市羅漢の里(高橋, 2023)のみである。

エグリキバガ科

18. ネズミエグリキバガ *Acria ceramitis* 図 18

1ex., たつの市御津町礎岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025. : 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025. : 2exs., 同地, 19. IX. 2025. : 1 ♂ 1ex., 同地, 12. X. 2025.

ライトトラップに飛来した。神戸市・宝塚市・相生市・神河町・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

19. シロモンクロキバガ *Aroga mesostrepta* 図 19

1ex., たつの市新宮町牧 牧運動公園, 23. IV. 2025. : 1ex., 上郡町金出地, 2. V. 2025.

ライトトラップに飛来した。国内では北海道, 本州に分布し, 成虫は 5 月中旬 ~ 6 月下旬に得られている(広渡ほか, 2013)。宝塚市・川西市・相生市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

ハマキガ科

20. セウスイロハマキ *Acleris enitescens* 図 20

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. X. 2025. : 1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 18-19. X. 2025..

ライトトラップに飛来した。平地から山地まで, 林縁や路傍などで見られる(那須ほか, 2013)とされるが, 兵庫県内で発表されている記録は上郡町・淡路市・洲本市(宇野ほか, 2024)のみである。

21. ナカジロハマキ *Acleris japonica* 図 21

1 ♂, たつの市新宮町光都, 13. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。姫路市(宇野ほか, 2024), 宍粟市, 佐用町(高橋, 2025)で記録されている。

22. ブドウホソハマキ *Eupoecilia ambiguella* 図 22

1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 17. IX. 2023. : 1ex., たつの市新宮町光都, 17. IV. 2024. : 1ex., 上郡町金出地, 20. VI. 2025. : 1 ♂ 1 ♀, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。ヨーロッパでは 2 化の幼虫はブドウの果実を食べる重要害虫として知られるが, 日本ではブドウでの発生はほとんど知られていない(那須ほか, 2013)。宇野ほか(2024)での記録は相生市・神河町・香美町・淡路島・南あわじ市となっている。

23. アカオビホソハマキ *Eupoecilia kobeanae* 図 23
1ex., 上郡町金出地, 18. VII. 2025. : 1ex., 佐用町船越, 23. VIII. 2025. : 1ex., 同地, 18. X. 2025.
ライトトラップに飛来した. 神戸市・相生市・洲本市で記録されている (宇野ほか, 2024).
24. アカトビハマキ *Pandemis cinnamomeana* ☆ 図 24
1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.
ライトトラップに飛来した. ♂の頭部は白色. 低地から山地の森林帯で見られるが、特に山地ではごく普通 (那須ほか, 2013) とされる. 神戸市・神戸町・養父市・丹波市で記録されている (宇野ほか, 2024).
25. イグサヒメハマキ *Bactra furfurana* 図 25
1ex., 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 6. IX. 2023. : 1 ♀, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.
外灯に飛来していた. 前翅は褐色がかかった灰色で, 基部はやや褐色, 翅全体に褐色波線をもつが, 色彩および斑紋とも変化に富む. 幼虫はイグサの主要害虫として知られる (那須, 2022). 川西市・上郡町・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).
26. フタボシヒメハマキ *Ancylis selenana* 図 26
1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 24. VIII. 2025.
ライトトラップに飛来した. 兵庫県内では相生市羅漢の里 (高橋, 2023) のみで記録されている.
27. ニセハギカギバヒメハマキ *Semnostola magnifica* ○ 図 27
1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 5. VII. 2025.
水辺でのライトトラップに飛来した. 成虫は6~8月に採れており, ヤチダモ (モクセイ科) 自生地に産する (那須, 2022) とのことだが, ヤチダモの分布は北海道~中部地方の冷温帯 (林, 2014) であり, 当地は域外であるため近縁種を利用している可能性が考えられる. 兵庫県内では養父市のみで記録されている (宇野ほか, 2024).
28. マツズアカシムシ *Retinia cristata* ○ 図 28
1ex., 宍粟市千種町河内 三室高原, 5. V. 2025.
ライトトラップに飛来した. 幼虫はマツの新梢や球果に潜る (那須, 2021). 宝塚市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).
29. ヤマモモヒメハマキ *Eudemis gyrotis* 図 29
1ex., たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025.
ライトトラップに飛来した. 前翅の地色が茶褐色で, やや暗色の斑紋が明瞭な夏型および全体が暗褐色で, 後縁部に白っぽい波状紋をもつ秋型の2型がある (那須, 2024). 川西市・上郡

町・南あわじ市で記録されている.

30. クローバヒメハマキ *Olethreutes doubledayana* 図 30
1 ♀, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 19. IX. 2025. : 1 ♂, 佐用町東徳久, 2. X. 2025.
宍粟市ではライトトラップ, 佐用町では外灯に飛来したものを採集し検鏡した. 前翅長は前者が7mm, 後者が5mmだった. 日本ではシロツメクサの新芽や新葉を綴り, 害虫として知られる (那須, 2024). 兵庫県内の記録は上郡町高田台 (大貝, 2018) のみである.
31. オオセシロヒメハマキ *Rhopobota ilexi* 図 31
1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 1. X. 2025.
ライトトラップに飛来した. 幼虫はソヨゴなどのモチノキ科植物の葉を綴る. 神戸市・相生市で記録されている (宇野ほか, 2024).

ハマキモドキガ科

32. イヌビワハマキモドキ *Choreutis japonica* ○ 図 32 ~ 34
1 ♀ 15exs. 以上, 上郡町光都 兵庫県西播磨総合庁舎内, 23. VII. 2025.
筆者は兵庫県西播磨総合庁舎の外壁で2024年6月1日と2025年7月18日に成虫各1頭を発見したが採集も撮影もできなかった. その後2025年7月下旬に庁舎内のコンコースに生えている樹高約4m, 根際の幹回り33cmのイヌビワの葉先及び葉裏で幼虫 (図32), 繭, 繭殻 (図33) を多数発見し, 7月23日に繭を作っている終齢幼虫を1頭, 同25日には終齢幼虫2頭を持ち帰って飼育した. 前者は7月31日に羽化 (図34), 後者のうち1頭は27日に繭を作り, 8月3日に羽化した. 幼虫は葉を巻いて1~数頭で生活していたが非常に俊敏で, 刺激を与えるとたちまち巣や繭から脱出して落下するため採集の際には注意を要する. 羽化殻は繭の外側に付着する. 兵庫県内の記録は西宮市のみである (宇野ほか, 2024).

メイガ科

33. ニシキシマメイガ *Mimicia pseudolibatrix* 図 35
1ex., 上郡町金出地, 18. VII. 2025.
ライトトラップに飛来した. 香美町 (阪上ほか, 2020), 宍粟市 (高橋, 2025) で記録されている.
34. ヒメアカシマメイガ *Bostra nanalis* 図 36
1ex., たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 16. VII. 2025.
ライトトラップに飛来した. 7~9月に平地から山地まで見られるが少ない (那須ほか, 2013) とされる. 神戸市・宝塚市・川西市・西脇市・明石市・佐用町・淡路市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

35. キガシラシマメイガ *Trebania flavifrontalis* ○ 図 37
1ex., 佐用町船越, 28. VI. 2025.

瑠璃寺仁王門横の高台でのライトトラップに飛来した。国内では本州, 四国, 九州, 対馬に分布する。6 ~ 8 月に平地, 低山地で見られるが, きわめてまれ(那須ほか, 2013)とされる。養父市・丹波市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

36. ツマグロフトメイガ *Noctuoides melanophia* ☆ 図 38
1 ♂, 上郡町金出地, 20. VI. 2025.: 5exs. 以上, 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。宇野ほか(2024)での記録は西脇市・養父市付近・南あわじ市となっている。

37. ネグロフトメイガ *Stericta kogii* ○ 図 39
1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 3. VII. 2024.

ライトトラップに飛来した。宇野ほか(2024)での記録は宝塚市・朝来市付近・養父市付近・南あわじ市となっている。

38. ウスアカモンクロマダラメイガ *Ceroprepes ophthalmicella* ○ 図 40

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.
ライトトラップに飛来した。国内では北海道, 国後島, 本州, 九州, 屋久島に分布し, 6 ~ 9 月に山地でふつうに見られる(那須ほか, 2013)とされるが, 兵庫県内の記録は養父市のみである(宇野ほか, 2024)。

ツトガ科

39. シナミズメイガ *Elophila sinicalis* 図 41
1 ♀, 上郡町金出地, 2. IX. 2022.

ライトトラップに飛来した。南あわじ市(宇野ほか, 2024), 佐用町船越(高橋, 2025)で記録されている。

40. ナカアカクルマメイガ *Clupeosoma pryori* ○ 図 42
1ex., たつの市新宮町光都, 13. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。5 ~ 9 月に平地で見られるが, あまり多くない(那須ほか, 2013)とされる。新温泉町・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

41. ネモンノメイガ *Nacoleia tampiusalis* ☆ 図 43
1ex., たつの市新宮町光都, 25. VI. 2025.

ライトトラップに飛来した。西宮市・三田市・多可町・養父市・香美町で記録されている(宇野ほか, 2024)。

42. シナチクノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis*
○ 図 44

2 ♀ 1ex., 上郡町金出地, 20. VI. 2025.: 1 ♀ 1ex., 同地, 29. VII. 2025.: 3exs., たつの市新宮町光都, 25. VI. 2025.: 5exs. 以上,

佐用町船越, 28-29. VI. 2025.: 5exs. 以上, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025.: 5exs., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.: 11exs., 同地, 29. VIII. 2025.: 1ex., 佐用町東徳久, 20. IX. 2025.

佐用町東徳久の個体は外灯, それ以外は全てライトトラップに飛来した。本種は中国南部からの外来種と考えられ, 国内では2022年に初めて記録された(岩下・松井, 2022)。兵庫県での初記録は2023年の香美町ハチ北高原(阪上, 2024)である。筆者による西播磨地域での調査では2024年以前は全く確認できなかったが, 2025年6月以降, 各地で多数が飛来するようになった。確認範囲はたつの市御津町碓岩(標高14m)から宍粟市千種町のちくさ高原(標高1000m)にまで及んでおり, 爆発的に分布を拡大したことが見て取れる。

シャクガ科

43. ヨスジアカエダシャク *Astygisa morosa* ○ 図 45
1 ♂, 上郡町金出地, 28. V. 2025.

ライトトラップに飛来した。次種オオヨスジアカエダシャクと酷似しており, 同定には交尾器の調査が望ましいとされる。本種の♂交尾器はバルバの先端が細く長くのびてとがっている。♀交尾器のドクツス・ブルサエは強く骨化し太く短い(岸田, 2011a)。宇野ほか(2024)での記録は兵庫県・猪名川町・養父市となっている。

44. オオヨスジアカエダシャク *Astygisa chlororhynodes*
○ 図 46

1 ♀, 上郡町金出地, 20. VI. 2025.: 1 ♂, たつの市新宮町光都, 25. VI. 2025.

ライトトラップに飛来した。♂交尾器はバルバの先端はスプーン状に広がっている。♀交尾器のドクツス・ブルサエは前種に比して明らかに細く長い。前種より普通に産する(岸田, 2011a)とされる。猪名川町・川西市・丹波市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

45. シャンハイオエダシャク *Macaria shanghaiensis*
☆ 図 47

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.: 1ex., 同地, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。ヤナギ類の多い河川敷や湿生環境に多い(岸田, 2011a)。神戸市・宝塚市・西宮市・三田市・西脇市・養父市・丹波市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

46. ヒメナカウスエダシャク *Alcis medialbifera* ○ 図 48
3 ♀ 10exs. 以上, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 19. IX. 2025.: 5 ♀, 同地, 12. X. 2025.

ライトトラップに多数が飛来した。寄主植物はモミ, トドマツ, コメツガ, トウヒで針葉樹に固有。北海道では広く生息するが,

本州以南では高標高地に限られる(岸田, 2011a)とされるが、兵庫県内では神戸市・宝塚市・養父市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。宝塚市と南あわじ市の最高地点は573mと607.9mである。

47. シロスジオオエダシヤク *Xandrames latiferaria*

○ 図 49

1 ♂, 宍粟市一宮町東公文 ろくろしの森キャンプ場, 19. VI. 2021.: 1 ♂, 宍粟市波賀町鹿伏, 21. V. 2022.: 2 ♂, 同地, 3. VII. 2024.: 2 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。養父市・新温泉町・丹波市・丹波篠山市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

48. オオマエキトビエダシヤク *Nothomiza oxygoniodes*

○ 図 50

1 ♀, たつの市揖保川町黍田 ヤッホの森, 9. IV. 2022.
林内でのライトトラップに飛来した。マエキトビエダシヤクよりも暖かい地域に普通に産する(岸田, 2011a)。神戸市・西宮市・三田市・新温泉町・淡路市・洲本市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

49. ハガタキスジアオシヤク *Hemistola tenuilinea*

○ 図 51

2exs., 宍粟市波賀町鹿伏, 17. VII. 2022.: 1ex., 上郡町金出地, 26. VI. 2024.: 1ex., 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 1. VII. 2024.: 1ex., たつの市新宮町光都, 25. VI. 2025.
いずれもライトトラップに飛来した。宝塚市・養父市・丹波市・洲本市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

50. アカホシヒメアオシヤク *Comostola rubripunctata*

○ 図 52

1 ♂, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.
丘陵の山裾でのライトトラップに飛来した。神戸市・宝塚市・洲本市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

51. シロモンアオヒメシヤク *Dithecodes erasa* ○ 図 53

1ex., 上郡町金出地, 29. VII. 2025.

ライトトラップに飛来した。前後翅に白色の横脈点があり、後翅のものはより発達し、三日月状になる。山地に産するが、あまり多くない(岸田, 2011a)とされる。宇野ほか(2024)での記録は兵庫県・川西市・養父市・丹波市となっている。

52. ナガサキヒメシヤク *Scopula plumbearia* 図 54

1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 23. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。相生市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

53. キリバネホソナミシヤク *Brabira artemidora* ○ 図 55

1 ♂, 上郡町金出地, 23. IX. 2023.: 1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.: 1 ♀, 同地, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。全国的に低山地から山地に広く分布し、ごく普通に産する(岸田, 2011a)とされる。神戸市・豊岡市・養父市・丹波市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

54. ヒゲブトナミシヤク *Sauris nanaria* ○ 図 56

1ex., 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

瑠璃寺仁王門横の高台でのライトトラップに飛来した。本州では関東地方以西の山地に産するが、かなり少ない(岸田, 2011a)とのことである。兵庫県内の記録は丹波市のみである(宇野ほか, 2024)。

55. マンサクシロナミシヤク *Asthena hamadryas* ○ 図 57

1ex., 上郡町金出地, 2. V. 2025.

ライトトラップに飛来した。ムスジシロナミシヤクとは斑紋では区別できないが、顔面の橙色部の割合が異なり、本種は2/3～4/5と多い(岸田, 2011a)。兵庫県内の記録は神戸市六甲山(八木ほか, 2002)のみである。

56. フタマタシロナミシヤク *Asthena ochrifasciaria* ☆ 図 58

1 ♂ 2exs., 佐用町船越, 23-24. VIII. 2025.

佐用町昆虫館敷地内及び瑠璃寺仁王門横の高台でのライトトラップに飛来した。日本固有種で、本州、四国、九州、対馬に分布し、関東地方周辺では低山地から山地まで産し、普通に見られる(岸田, 2011a)とのことである。多可町、丹波市(宇野ほか, 2024)で記録されている。

57. ハラキカバナミシヤク *Eupithecia subtacincta* ☆ 図 59

1 ♀, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 23. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来したものを採集し、検鏡した。かなり小型で、腹部背面が赤褐色が目立つ。平地から山地まで広く分布し、7～8月に多産する(岸田, 2011a)とされるが、兵庫県内の記録は高砂市のみである(宇野ほか, 2024)。

58. クニガミカバナミシヤク *Eupithecia ryukyensis* ○ 図 60

1 ♀, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.

ライトトラップに飛来したものを採集し、検鏡した。秋の蛾で9月～11月に出現するが少ない(岸田, 2011a)とされる。兵庫県内の記録は南あわじ市のみである(宇野ほか, 2024)。

59. アザミカバナミシヤク *Eupithecia virgaureata* 図 61

1 ♀, 相生市那波野 岩屋谷公園, 8. IV. 2025.: 1 ♀, 佐用町船越, 3. V. 2025.: 1 ♀, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.

ライトトラップに飛来したものを採集し、検鏡した。宝塚市・伊丹市・上郡町で記録されている(宇野ほか, 2024)。

60. ホソバチビナミシヤク *Spiralisigna subpumilata* 図 62

1 ♀, たつの市新宮町光都, 13. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来したものを採集し, 検鏡した. 分布が広く, 4 ~ 10 月に平地から山地まで各地で採れているが, あまり多くない (岸田, 2011a) とされる. 上郡町・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

スズメガ科

61. クロスギバハウジャク *Hemaris affinis* ☆ 図 63

1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 22. V. 2025.

日中, 道路脇のウツギに訪花したものを採集した. 宝塚市・三田市・猪名川町・神河町・豊岡市・養父市・香美町・丹波市・丹波篠山市で記録されている (宇野ほか, 2024).

シャチホコガ科

62. タカムクシャチホコ *Takadonta takamukui* ○ 図 64

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 年 1 化, 8 月に出現. 寄主植物はブナ, イヌブナ (岸田, 2011b). 兵庫県に隣接する他県でも稀な種とされており, 産地はかなり局限されているのかもしれない (高島, 2001). 養父市・新温泉町で記録されている (宇野ほか, 2024).

ヒトリガ科

63. スカシコケガ *Nudaria ranruna* 図 65

1ex., たつの市新宮町光都, 26. VII. 2021. : 1ex., 上郡町金出地, 12. XI. 2021. : 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 15. X. 2025.

ライトトラップに飛来した. 房総半島以西に分布し, 7 ~ 10 月に得られているがくわしい化性などは不明. 寄主植物はアラカシ, ミミズバイ, ヒサカキ, サカキで, 照葉樹林に多い (岸田, 2011b) とされるが, 宍粟市では標高 1000m を越える地点で確認できた. 宝塚市・三田市・相生市で記録されている (宇野ほか, 2024).

アツバモドキガ科

64. ウスオビアツバモドキ *Mimachrostia fasciata* 図 66

1ex., 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

瑠璃寺仁王門横の高台でのライトトラップに飛来した. 相生市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

コブガ科

65. ソトジロコブガ *Manoba fasciatus* 図 67

1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 19. IX. 2025.

ライトトラップに飛来した. 川西市・相生市で記録されている (宇野ほか, 2024).

ヤガ科

66. ミジンアツバ *Hypenodes rectifascia* 図 68

1ex., 佐用町東徳久, 20. IX. 2025.

外灯に飛来していた. 上郡町・宍粟市で記録されている (宇野ほか, 2024).

67. オビマダラアツバ *Raparna roseata* ○ 図 69

1ex., 上郡町金出地, 6. IX. 2021. : 1 ♂, 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 神戸市・宝塚市・猪名川町・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

68. ヒロバチビトガリアツバ *Hypenomorpha calamina* ☆ 図 70

1ex., たつの市新宮町光都, 6. IX. 2023. : 1ex., たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025. : 1ex., 佐用町船越, 23. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 神戸市・川西市・神河町・西脇市・丹波市で記録されている (宇野ほか, 2024).

69. ツマトビコヤガ *Autoba tristalis* ☆ 図 71

1ex., 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 21. VI. 2023. : 1 ♀, 上郡町金出地, 29. VII. 2025.

相生市では外灯, 上郡町ではライトトラップに飛来した. 神戸市・西宮市・神河町・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024). 高島 (2003) に「県下では少ないながら低山地から山地にかけて分布を拡げているものと思われる」とある.

70. チャイロアツバ *Britha inambitiosa* 図 72

1ex., たつの市新宮町光都 兵庫県西播磨総合庁舎付近, 13. VI. 2022. : 1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 30. VII. 2022. : 1 ♂, 佐用町船越, 24. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 宝塚市・神河町・宍粟市・丹波市で記録されている (宇野ほか, 2024).

71. ウスベニツマキリアツバ *Tamba gensanalis* 図 73

1ex., たつの市新宮町光都, 6. VI. 2022. : 1ex., 上郡町金出地, 2. IX. 2022. : 1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 29. VI. 2025. : 1ex., 同地, 24. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 相生市・上郡町で記録されている (宇野ほか, 2024).

72. シロツマキリアツバ *Pangrapta porphyrea* 図 74

1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 21. VIII. 2022. : 1ex., 上郡町金出地, 28. V. 2025.

ライトトラップに飛来した. 宇野ほか (2024) での記録は神戸市・宝塚市・川西市付近・朝来市・宍粟市・豊岡市・養父市・丹波市となっている.

73. クロミツボシアツバ *Sinarella japonica* ○ 図 75

1 ♀, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 24. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 兵庫県内では養父市で複数の記録がある (宇野ほか, 2024).

74. ムーアキシタクチバ *Hypocala deflorata* ○ 図 76

1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 19. IX. 2025.

ライトトラップに飛来した. 伊丹市・養父市・丹波市で記録されている (宇野ほか, 2024).

75. ナカグロクチバ *Grammodes geometrica* 図 77

2exs., 佐用町東徳久, 20. IX. 2025. : 1ex., たつの市御津町 碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.

外灯に飛来していた. 日本本土では偶産と考えられる (岸田, 2011b). 宇野ほか (2024) での記録は兵庫県・神戸市・三田市・南あわじ市となっているほか, たつの市でも 2021 年に記録されている (高橋, 2025).

76. アオスジコヤガ *Inabaia culta* 図 78

1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 21. VIII. 2022. : 1ex., 上郡町金出地, 2. IX. 2022. : 1 ♀, 佐用町船越, 24. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 岸田 (2011b) に「暖地の平地に産するがまれな種」とあるが, 宍粟市北部でも確認できた. 神戸市・猪名川町・相生市・丹波市・洲本市で記録されている (宇野ほか, 2024).

77. ナカジロシタバ *Aedia leucomelas* ☆ 図 79

1 ♀, 上郡町金出地, 16. IX. 2022. : 1 ♀, 佐用町東徳久, 20. IX. 2025. 三村剣義.

上郡町ではライトトラップ, 佐用町では外灯に飛来した. サツマイモの害虫とされる (岸田, 2011b). 神戸市・宝塚市・西脇市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

78. シロモンケンモン *Acronicta albistigma* 図 80

1ex., たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 3. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 神戸市・宝塚市・猪名川町・宍粟市・佐用町・丹波市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

79. ツマナミツマキリヨトウ *Data clava* ○ 図 81

1ex., たつの市新宮町光都, 6. IX. 2023.

ライトトラップに飛来した. 兵庫県内の記録は神戸市・宝塚市・猪名川町 (宇野ほか, 2024) で, 播磨地域などではこれまで未記録だったが, 高島 (2002) は「それほど局地的な種ではないと思われ, 南部の低山地域を探せば見つかると思われる」としていた.

80. アミメヒメヨトウ *Iambia transversa* 図 82

1ex., 佐用町船越, 29. VI. 2025.

ライトトラップに飛来した. シロマダラヒメヨトウに似るが小型で, 翅底部から中室下にかけての黒色影はあらわれない. 平地で採集されるが少ない (岸田, 2011b) とされる. 兵庫県内の記録は相生市羅漢の里 (高橋, 2023) のみである.

81. アオキノコヨトウ *Stenoloba assimilis* ○ 図 83

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 20. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した. 前翅の内横線は直線状に斜行し, 外横線はなめらかに屈曲する. 後翅は褐色で横脈紋があらわれる (岸田, 2011b). 県下では少ない種で, 神戸市 (摩耶山), 養父市 (氷ノ山) で記録されているのみである (高島, 1999a : 宇野ほか, 2024).

82. シロイチモジヨトウ *Spodoptera exigua* 図 84

1ex., たつの市揖保町揖保上, 31. V. 2021. : 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025. : 1 ♀ 2exs., たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.

ライトトラップに飛来した. 南極大陸を除く全世界に分布するが, 岸田 (2011b) の時点では産出量は少ないとされていた. 宇野ほか (2024) で取りまとめられている兵庫県内の記録は上郡町と南あわじ市のみである. しかし実際には県内各地に広く分布・多産しており, 兵庫県病害虫防除所が 2025 年 9 月 19 日に発表した病害虫発生予察注意報第 5 報では, 同年 8 月～9 月上旬の間に本種のフェロモントラップによる 5 日間の誘殺数が加西市で 200 頭程度, 朝来市で 500 頭以上, 南あわじ市では 10 日間で 900 頭以上にも及んでいる期間があること, 幼虫の発生が広く確認され, 県内各地でねぎ, ピーマン, カーネーション, 大豆栽培圃場及びたまねぎやレタスの育苗床で既に被害が認められていることなどを示し, 適切な防除指導を促している.

83. チャイロカドモンヨトウ *Apamea sodalis* 図 85

1ex., たつの市新宮町光都, 20. IX. 2021.

ライトトラップに飛来した. 5～6 月に羽化後, 洞窟内で越冬し, 8～9 月に出現する. 低山地から山地で採集される (岸田, 2011b). 宍粟市・養父市・丹波市・南あわじ市で記録されている (宇野ほか, 2024).

84. ヤナギキリガ *Ipimorpha retusa* ☆ 図 86

1 ♀ 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 19. IX. 2025.

ライトトラップに飛来した. 成虫は 7～9 月に出現し, 幼虫はイヌコリヤナギなどのヤナギ科を寄主とする (岸田, 2011b). 神戸市・養父市で記録されている (宇野ほか, 2024).

以上 84 種を報告する. 兵庫県内で初記録の種が 14 種, 播磨地域全域で初記録の種が 27 種, 西播磨地域で

初記録の種が 11 種である.

謝辞

末筆ではあるが、みはらしの森の植生についてご教示いただいた茂見節子氏、田中義則氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 岩下幸平・松井悠樹, 2022. 中国南部からの外来種と考えられるノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* (Caradja, 1925) の日本からの初記録. 蛾類通信, 300 : 683-684.
- 宇野宏樹・池田 大・阪上洸多, 2024. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html (参照 2025 年 4 月 30 日).
- 大貝秀雄, 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相. 94pp. 播磨長翅目研究センター.
- 岸田泰則 (編), 2011a. 日本産蛾類標準図鑑 I. 352pp. 学習研究社.
- 岸田泰則 (編), 2011b. 日本産蛾類標準図鑑 II. 416pp. 学習研究社.
- 阪上洸多, 宮野昭彦, 後藤聖士郎, 岩下幸平, クルズスキー淳子, 間野隆裕, 松井悠樹, Khine Mon Mon Kyaw, 那須義次, 奥 尉平, 富沢 章, 外村俊輔, 屋宜 禎, 2020. 兵庫県で開催した第 79 回レピドプテリストセミナー (レピゼミ) で採集された蛾. 誘蛾燈, 240 : 32-40.
- 阪上洸多, 2024. ハチ北高原から得られた蛾類 3 種の採集例. きべりはむし, 47(1) : 68 - 69.
- 神保宇嗣, 2001. 長島の昆虫類 2000 年 6 月の調査から. 長島の自然 瀬戸内海周防灘東部の生物多様性. 日本生態学会中国四国地区会報, 59 : 26 - 34
- 高島 昭, 1999a. 兵庫県のキノコヨトウ亜科とタバコガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・11. きべりはむし, 27 (1) : 22-27
- 高島 昭, 1999b. 兵庫県のカギバガ科・オオカギバガ科・トガリバガ科 兵庫県産蛾類分布資料・14. きべりはむし, 27 (2) : 61-75
- 高島 昭, 2001. 兵庫県のシャチホコガ (2) 兵庫県産蛾類分布資料・21. てんとうむし, 14 : 61-76
- 高島 昭, 2002. 兵庫県のカラスヨトウ亜科 (その 2) 兵庫県産蛾類分布資料・26. きべりはむし, 30 (2) : 32-43
- 高島 昭, 2003. 兵庫県のコヤガ亜科 兵庫県産蛾類分布資料・28. きべりはむし, 31 (1) : 81 - 95
- 高橋弘樹, 2023. 相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録 (3) - 相生市三濃山麓の蛾 2020 -

2023 -. きべりはむし, 46 (2) : 1-16.

- 高橋弘樹, 2025. 2021 年～ 2025 年に西播磨地域で確認した兵庫県初記録及び県内で記録の少ない蛾類について. きべりはむし, 48 (1) : 86-100.
- 那須義次, 2021. 日本のハマキガ 1 モグリヒメハマキガ族 (鱗翅目, ハマキガ科, ヒメハマキガ亜科). 171pp. 日本蛾類学会.
- 那須義次, 2022. 日本のハマキガ 2 ハラブトヒメハマキガ族, クラークヒメハマキガ族, トガリバヒメハマキガ族およびカギバヒメハマキガ族 (鱗翅目, ハマキガ科, ヒメハマキガ亜科). 88pp. 日本蛾類学会.
- 那須義次, 2024. 日本のハマキガ 3 ヒメハマキガ族およびカギバヒメハマキガ族とモグリヒメハマキガ族の補遺 (鱗翅目, ハマキガ科, ヒメハマキガ亜科). 155pp. 日本蛾類学会.
- 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 (編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅳ, 522pp. 学習研究社.
- 林 将之, 2014. 山溪ハンディ図鑑 14 樹木の葉 実物スキャンで見分ける 1100 種類. 759pp. 山と溪谷社.
- 兵庫県立農林水産技術総合センター病害虫部 (兵庫県病害虫防除所), 2025 年 9 月 19 日, 令和 7 年度病害虫発生予察注意報 第 5 号 シロイチモジヨトウの発生状況と防除対策について. <https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/press/documents/r7chuihou5goushiroitimojiyotou.pdf> (参照 2025 年 10 月 8 日)
- 広渡俊哉, 那須義次, 坂巻祥孝, 岸田泰則 (編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅲ. 360pp. 学習研究社.
- 八木 剛・中西明德・青田紀子・稲畑憲昭・植田義輔・岡本俊治・勝又千寿代・金子留美子・古賀督尉・杉野広一・高島 昭・谷口日出二・谷口幸生・桧山咲美・林 成多・水野辰彦・山崎敏雄・山本勝也・吉田 武, 2002. 六甲山のブナ林とその周辺の昆虫相 - 2001 年の合同調査から -. きべりはむし, 30(1) : 1 - 45
- 新・廿日市市の自然観察 (昆虫), 2024 年 11 月 4 日, ミナミクロモンアオシャク (新顔) と ヒメクダマキモドキの 2 ショットが 1 1 9 種です. <https://new-2014no64.seesaa.net/article/505531727.html> (参照 2025 年 10 月 3 日).

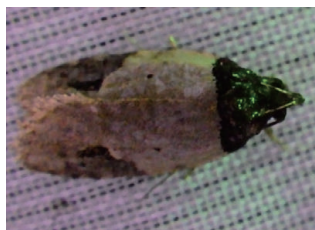


図 15 モンシロヒラタマルハキバガ, 佐用町, 2025/8/23



図 16 カタキオビマルハキバガ, 宍粟市, 2025/8/20



図 17 フタテンハビロキバガ, 宍粟市, 2025/8/29



図 18 ネズミエグリキバガ, 宍粟市, 2025/8/29



図 19 シロモンクロキバガ, たつの市, 2024/4/23



図 20 セウスイロハマキ, 宍粟市, 2025/10/12



図 21 ナカジロハマキ, たつの市, 2025/8/13



図 22 ブドウホソハマキ, 宍粟市, 2025/8/29



図 23 アカオビホソハマキ, たつの市, 2025/7/18



図 24 アカトビハマキ, 宍粟市, 2025/8/29



図 25 イグサヒメハマキ, 相生市, 2023/9/6



図 26 フタバシメハマキ, 佐用町, 2025/8/24



図 27 ニセハギギバヒメハマキ, 宍粟市, 2025/7/5

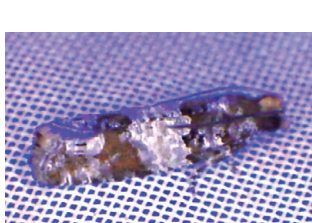


図 28 マツズアカシムシ, 宍粟市, 2025/5/5



図 29 ヤマモトヒメハマキ, たつの市, 2025/8/3



図 30 クローバヒメハマキ♂と交尾器, 佐用町, 2025/10/2



図 31 オオセシロヒメハマキ, 宍粟市, 2025/10/1



図 32 イヌビワハマキモドキ幼虫, 上郡町, 2025/7/23



図 33 イヌビワハマキモドキ繭と蛹, 上郡町, 2025/7/23



図 34 イヌビワハマキモドキ, 2025/7/31 羽化



図 35 ニシキシマメイガ, 上郡町, 2025/7/18



図 36 ヒメアカシマメイガ, たつの市, 2025/7/16



図 37 キガシラシマメイガ, 佐用町, 2025/6/28

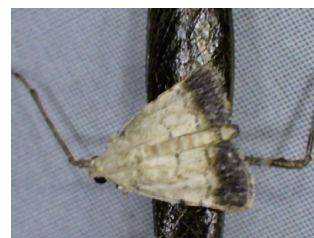


図 38 ツマグロフトメイガ, 上郡町, 2025/6/20



図 39 ネグロフトメイガ,
 宍粟市, 2024/7/3



図 40 ウスアカモンクロマダラメイガ,
 宍粟市, 2025/8/29

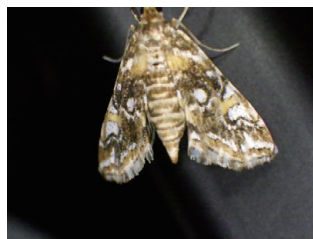


図 41 シナミズメイガ,
 上郡町, 2022/9/2



図 42 ナカアカクルマメイガ,
 たつの市, 2025/8/13



図 43 ネモンノメイガ,
 たつの市, 2025/6/25



図 44 シナチクノメイガ,
 上郡町, 2025/6/20



図 45 ヨスジアカエダシャク♂と交
 尾器, 上郡町, 2025/5/28



図 46 オオヨスジアカエダシャク♂
 と交尾器, たつの市, 2025/6/25



図 47 シャンハイオエダシャク,
 宍粟市, 2025/8/20



図 48 ヒメナカウスエダシャク,
 宍粟市, 2025/9/19



図 49 シロスジオオエダシャク,
 宍粟市, 2024/7/3



図 50 オオマエイトビエダシャク,
 たつの市, 2022/4/9



図 51 ハガタキシジアオシャク,
 相生市, 2024/7/1



図 52 アカホシヒメアオシャク,
 たつの市, 2025/10/7



図 53 シロモンアオヒメシャク,
 上郡町, 2025/7/29



図 54 ナガサキヒメシャク,
 佐用町, 2025/8/23



図 55 キリバネホソナミシャク,
 宍粟市, 2025/8/20



図 56 ヒゲブトナミシャク,
 佐用町, 2025/8/23



図 57 マンサクシロナミシャク,
 上郡町, 2025/5/2



図 58 フタマタシロナミシャク,
 佐用町, 2025/8/23



図 59 ハラキカバナミシャク,
 佐用町, 2025/8/23



図 60 クニガミカバナミシャク♀と
 交尾器, たつの市, 2025/10/7



図 61 アザミカバナミシャク♀と
 交尾器, たつの市, 2025/10/7



図 62 ホソバチビナミシャク♀と
 交尾器, たつの市, 2025/8/13



図 63 クロスキバホウジャク,
宍粟市, 2025/5/22



図 64 タカムクシャチホコ,
宍粟市, 2025/8/29



図 65 スカシコケガ,
宍粟市, 2025/10/15



図 66 ウスオビアツバモドキ,
佐用町, 2025/8/23



図 67 ソトジロコブガ,
宍粟市, 2025/9/19



図 68 ミジンアツバ,
佐用町, 2025/9/20



図 69 オビマダラアツバ,
佐用町, 2025/8/23



図 70 ヒロパチビタガリアツバ,
佐用町, 2025/8/23



図 71 ツマトビコヤガ,
上郡町, 2025/7/29



図 72 チャイロアツバ,
佐用町, 2025/8/24



図 73 ウスベニツマキリアツバ,
たつの市, 2022/6/6



図 74 シロツマキリアツバ,
宍粟市, 2022/8/21



図 75 クロミツボシアツバ,
佐用町, 2025/8/24



図 76 ムーアキシタクチバ,
宍粟市, 2025/9/19



図 77 ナカグロクチバ,
佐用町, 2025/9/20



図 78 アオスジコヤガ,
佐用町, 2025/8/24



図 79 ナカジロシタバ,
佐用町, 2025/9/20



図 80 シロモンケンモン,
たつの市, 2025/8/3



図 81 ツマナミツマキリヨトウ,
たつの市, 2023/9/6



図 82 アミメヒメヨトウ,
佐用町, 2025/6/29



図 83 アオキノコヨトウ,
宍粟市, 2025/8/20



図 84 シロイチモジヨトウ,
たつの市, 2025/10/7



図 85 チャイロカドモンヨトウ,
たつの市, 2021/9/20



図 86 ヤナギキリガ,
宍粟市, 2025/9/19